

# 付録

## 1. 消防本部・署の沿革（川内市消防本部）

年	月	概	要
昭和 26年	4月 1日	消防本部を創設（初代消防長 近藤磨瑳雄（団長兼務）以下 9 人）	
昭和 27年	11月 13日	自動車ポンプを購入（消防長以下 18 人）	
昭和 32年	10月 20日	気象観測開始	
昭和 33年	1月	自動車ポンプを購入（人口 62,492 人、職員 27 人、自動車ポンプ 2 台）	
昭和 34年	11月 10日	消防署を創設（近藤消防長、初代署長を兼務）	
昭和 35年	6月 30日	近藤消防長（署長）退任、第 2 代消防長に仮屋重夫市助役が消防長事務取扱として就任	
昭和 36年	3月 1日	第 2 代消防署長に須田清春就任	
昭和 37年	4月 1日	大小路分遣隊を新設（職員 9 人、自動車ポンプ 1 台）	
	5月 17日	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車の寄贈を受ける	
昭和 39年	3月 25日	消防無線開設（基地 1、移動 3 台）	
昭和 41年	12月 15日	須田清春署長が第 3 代消防長に、平瀬松次次席が第 3 代署長に就任	
昭和 43年	4月 15日	平瀬署長退任（須田消防長、第 4 代署長を兼務）	
	5月 1日	救急業務開始（職員 41 人、自動車ポンプ 4 台、救急車 1 台）	
昭和 45年	12月 28日	須田消防長（署長）退任、児玉篤信市助役が第 4 代消防長事務取扱となる	
昭和 46年	1月 9日	平山武徳次席が第 5 代署長に就任	
	7月 7日	平山武徳次長兼署長に就任	
	9月 30日	児玉消防長事務取扱が退任、横山正元市長が第 5 代消防長事務取扱に就任	
昭和 47年	1月 17日	梯子車（24 m）を購入（職員 53 人、自動車ポンプ 3 台、救急車 1 台）	
昭和 48年	9月 1日	川内信用金庫より救急車の寄贈を受ける	
	9月 18日	鹿児島県共済農業協同組合連合会より救急車の寄贈を受ける	
昭和 49年	9月 28日	横山消防長事務取扱が退任、福壽十喜市長が第 6 代消防長事務取扱に就任	
昭和 50年	1月 7日	平山次長 署長の兼務を解き、浜田博之第 6 代署長に就任	
	3月 20日	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車の寄贈を受ける	
	6月 23日	平山次長退任	
	11月 3日	日乃出屋より器具車の寄贈を受ける（職員 54 人、本部車 1 台、自動車ポンプ 3 台、梯子車 1 台、救急車 2 台、器具車 1 台）	
	12月 1日	十島良郎次長に就任	
昭和 53年	4月 1日	川内市中郷町 2, 0 2 3 に新庁舎落成移転、同時に大小路分遣隊は市役所庁舎に移転、向田分遣隊と改称	
	5月 15日	川内信用金庫より消防指揮車の寄贈を受ける	
昭和 54年	7月 20日	京都セラミックより救急車の寄贈を受ける	
昭和 55年	3月 3日	浜田署長退任、堀之内成夫第 7 代署長に就任	
	11月 20日	十島次長退任、堀之内成夫次長兼署長に就任	
	11月 26日	タイヨーより救急車の寄贈を受ける	
昭和 56年	1月 20日	堀之内次長兼務を解き署長	
	1月 26日	福壽消防長事務取扱退任、山本孝一第 7 代消防長に就任	

## 川内地区消防組合

年	月	概	要
昭和 56年	4月 1日	1市3町4村を構成員とする川内地区消防組合発足 条例定数 105人 実員 76人 管理者 福壽十喜 助役 仁礼国市 収入役 松永富男 初代消防長 山本孝一 向田分遣隊を中央消防署南部分署と改称	
	7月 15日	川内地区消防組合紋章・組合旗の制定	
	12月 1日	土地区画整理事業により、消防本部・署の所在地町名地番変更 (川内市原田町 185 番地)	
昭和 57年	2月 10日	日本自動車工業会より救急車の寄贈を受ける	
	2月 24日	中央消防署上甌・下甌分駐所庁舎及び消防吏員待機宿舎完成	
	3月 31日	救急指令装置をB型電子式に整備・無線局寺山公園中継局設置 中央消防署上甌・下甌分駐所開所 各所に職員 6人・救急車 1台配備	
昭和 58年	1月 28日	中央消防署車庫新築(鉄骨スレート葺 32 m <sup>2</sup> )	
	3月 11日	鹿児島県共済農業協同組合連合会より救急車の寄贈を受ける	
	3月 18日	東部消防署庁舎完成(入来町浦之名 727 番地 2)	
	3月 19日	日本損害保険協会より救急車の寄贈を受ける	
	4月 1日	東部消防署開署(職員 11人、水槽付消防ポンプ自動車 1台、救急車 1台、指揮車 1台配備)	
	10月 1日	東部消防署に職員 6人を増置、17人とする コーアガス鹿児島・南日本ガスより指令車の寄贈を受ける	
	11月 1日	川内信用金庫より救急車の寄贈を受ける	
昭和 59年	1月 26日	管理者 福壽十喜 急逝	
	3月 12日	仁礼国市第 2 代管理者に就任	
	3月 26日	西部消防署庁舎完成(川内市水引町 3397 番地 2)	
	4月 1日	西部消防署開署(職員 13人、大型高所放水車 1台、水槽付消防ポンプ自動車 1台、救急車 1台、指揮車 1台配備)	
	7月 1日	萩迫良和第 2 代助役に就任	
	8月 28日	日本消防協会より電源照明用資機材搬送車の寄贈を受ける	
	10月 1日	西部消防署に職員 4人を増置、17人とする	
	11月 1日	中央消防署通信指令室にファクシミリ設置	
昭和 60年	2月 27日	中央消防署倉庫新築(鉄骨スレート葺 2階建 延面積 64 m <sup>2</sup> )	
	2月 28日	寺山無線中継局に遠方監視装置増設	
	4月 1日	条例定数改正 119人 実員 108人	
昭和 60年	12月 3日	三井液化ガスより指揮車の寄贈を受ける	
	12月 25日	救急業務用地図等検索装置(光ディスク方式)購入	
昭和 61年	4月 1日	消防本部警防課に通信指令係を新設(職員 3人)	
	4月 18日	消防組合発足 5 周年記念式典を挙行	

年	月	概	要
昭和 61年	8月 11日	山本消防長退任（萩迫助役が消防長事務取扱兼務）	
	10月 1日	野田泰宏第 2 代消防長に就任	
昭和 62年	3月 28日	消防本部、中央消防署庁舎増築・模様替工事（2 階部分 261 m <sup>2</sup> 増築）	
	12月 7日	中央消防署車庫新築（鉄骨スレート葺 73.95 m <sup>2</sup> ）	
	12月 15日	福崎勇夫氏（川内市）より救急車の寄贈を受ける	
昭和 63年	3月 9日	救助工作車及び救助資機材一式を購入、中央消防署に配備	
	6月 30日	消防庁長官表彰（表彰旗）	
	9月 6日	松永収入役退任	
	12月	森 卓朗第 2 代収入役に就任	
		市町村負担金分賦割合の変更につき関係市町村と協議	
		全市町村議会議決	
平成 元年	1月 30日	だいわより救急車の寄贈を受ける（川内市へ）	
	2月 2日	東部消防署車庫新築（鉄骨スレート葺 17.92 m <sup>2</sup> ）	
	3月 4日	市町村負担金分賦割合の変更許可（県知事）	
	12月 5日	日本防火協会より防火広報車の寄贈を受ける	
平成 2年	3月 31日	野田消防長退任	
	4月 1日	内田耕也第 3 代消防長に就任	
	6月 16日	堀ストアより救急車の寄贈を受ける（川内市へ）	
	10月 24日	南九州開発より梯子車（35 m）の寄贈を受ける（川内市へ）	
平成 3年	4月 7日	川内ライオンズクラブより救急車の寄贈を受ける	
	8月 4日	消防組合発足 10 周年記念式典を挙行（第 9 回消防フェスティバル同時開催）	
平成 4年	3月 2日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から消防無線移動局の貸与を受ける（5w15 基）	
	3月 26日	中央消防署南部分署新庁舎完成（川内市若松町 8 番 20 号）	
	8月	中央・東部・西部各消防署で消防フェスタ開催	
	9月 1日	日本消防協会より救急車の寄贈を受ける	
	10月 1日	中央消防署南部分署に職員 4 人を増置、13 人とする	
	11月 1日	大型高所放水車を西部消防署から中央消防署南部分署に配置転換	
平成 5年	3月 20日	中央消防署南部分署に訓練塔建設	
	3月 16日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から消防無線移動局（5w10 基）及び救助資器材等（空気呼吸器 5 基他）の貸与を受ける	
	3月 27日	サンテックより小型船舶（1.5 t）の寄贈を受ける	
	9月 20日	市町村負担金分賦割合に関する組合規約変更届出（平成 6 年度負担金から適用）	
平成 6年	2月 15日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から消防無線移動局（10w2 基、5w6 基）及び救助資器材等（空気呼吸器 5 基他）の貸与を受ける	

年	月	概	要
平成 6年	4月 1日	通信指令室に河川情報等受信用端末機を設置	
	5月18日	救急救命士誕生、11月に2人となる	
平成 7年	1月24日	阪神淡路大震災被災地へ職員5人、車両2台を派遣	～28日
	3月31日	内田消防長退任	
	4月 1日	山口 傳第4代消防長に就任(昇任)	
		条例定数改正 128人 実員 123人	
		川内市のコンピュータ(サーバ)と電話回線により接続された端末機を消防本部総務課に設置、財務会計のオンライン処理開始	
	5月19日	救急救命士3人となる	
	7月27日	日本損害協会より水槽付消防ポンプ自動車の寄贈を受ける	
	8月21日	第1回応急手当普及員講習会を実施(29人認定)	～23日
	8月25日	森収入役退任	
	8月29日	日本消防協会より救急車の寄贈を受ける	
	8月31日	萩迫助役退任	
	10月 1日	救急救命士の院内研修を川内市医師会立市民病院で実施(10月2人、11月2人)	
	11月22日	救急救命士4人となる	
平成 8年	1月18日	高規格救急車及び高度救命処置用資機材を購入、中央消防署に配備	
	3月10日	仁礼管理者退任	
	3月11日	森 卓朗第3代管理者に就任	
	3月15日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から消防無線移動局(10w2基、5w3基)の貸与を受ける	
	4月 1日	富山新八第3代助役に就任	
		若松隆久第3代収入役に就任	
		高規格救急車等による高度救急業務を開始	
		消防本部警防課の通信指令係を第1通信指令係及び第2通信指令係とする	
	4月 9日	コアガスグループより指令車の寄贈を受ける	
	8月20日	第2回応急手当普及員講習会を実施(29人認定)	～22日
	10月22日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加(熊本県菊池郡)	～23日
	12月 2日	救急救命士5人となる	
平成 9年	3月26日	鹿児島県北西部地震 M6.2 震度5強	
	3月31日	山口消防長退任	
	4月 1日	岩切秀雄第5代消防長に就任	
	4月 4日	カコイエレクトロより連絡車(ベスト電器号)の寄贈を受ける	
	5月12日	救急救命士6人となる	
	5月13日	鹿児島県北西部地震 M6.2 震度6弱	
	7月10日	鹿児島県消防相互応援協定に基づき出水市針原地区の土石流災害現場へ職員15人、車両3台を派遣	～11日

年	月	概	要
平成 9年	8月 20日	日本宝くじ協会より消火・通報訓練指導車（けすゾウくん）の寄贈を受ける	
	10月 7日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加（福岡市）～ 8日	
	11月	救急救命士 7 人となる	
平成 10年	3月 7日	自治体消防制度 50 周年	
	3月 10日	代表電話番号の変更 0996 - 22 - 0119	
	4月 1日	消防緊急通信指令施設（Ⅱ型）稼働 携帯電話等からの 119 番通報受信開始 女性消防吏員 1 人採用	
	4月 22日	中央消防署梯子車（35 m）分解整備（オーバーホール）～ 9月 30日	
	5月 1日	川内地区消防組合潜水隊編成（7 人）	
	5月 12日	救急救命士 8 人となる	
	11月 19日	川内ライオネスクラブより予防指導車（川内ライオネスクラブ号）の寄贈を受ける	
平成 11年	11月 25日	救急救命士 9 人となる	
	2月 24日	東部消防署 高規格救急車等による高度救急業務を開始	
	3月 5日	市町村負担金の支弁方法の改正に伴う県知事への組合規約変更届出（平成 11 年度より適用）	
	4月 1日	消防本部に予防課を新設し 3 課 7 係となる 職員実数 128 人となる	
	4月 9日	消防行政相談日並びに普通救命講習会開催（以降毎月 9 日に定期的実施）	
	5月 11日	救急救命士 10 人となる	
	5月 20日	第 83 回全国消防長会法制委員会を樋脇町で開催 ～ 21 日	
	10月 19日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加（長崎市）～ 20 日	
	11月 10日	救急救命士 11 人となる	
平成 12年	2月 1日	消防本部及び消防署の住居表示変更 原田町 22 番 10 号	
	3月 17日	上・下甌分駐所消防職員待機宿舎を上・下甌に 1 棟ずつ新築し、合わせて 6 世帯確保となる	
	31日	富山助役退任 岩切消防長退任	
	4月 1日	岩切秀雄第 4 代助役に就任 春田廣士第 6 代消防長に就任	
		原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から（エアート一式、発電機等 8 式、防護服等 50 式）の貸与を受ける	
	18日	南部分署大型高所放水車分解整備（オーバーホール）～ 9月 30日	
	5月 9日	救急救命士 12 人となる	
	10月 23日	緊急消防援助隊全国合同訓練参加（東京都江東区）～ 24 日	

年	月	概	要
平成 12年	10月 29日	川内ライオンズクラブ (35 周年記念事業) から指揮広報車 (川内ライオンズ号) の寄贈を受ける	
	11月 1日	救急救命士 13 人となる	
平成 13年	3月 23日	原子力発電施設等緊急時安全対策交付金事業により鹿児島県から消防無線移動局 (5W5 基) の貸与を受ける	
	10月 2日	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練参加 (佐賀市) ~ 3 日	
	10月 2日	消防組合 20 周年記念式典を挙行 (百次町、屋内研修訓練体育施設にて) (株)	
	10月 2日	外園運輸機工より消防指揮車の寄贈を受ける	
平成 14年	3月 31日	春田消防長転任	
	4月 1日	伊豫田輝雄第 7 代消防長に就任	
	5月 13日	救急救命士 14 人となる	
	5月 29日	(有)宝山実業より救急車 (赤玉号) の寄贈を受ける	
	6月 28日	(株)おおとり荘より小型貨物自動車の寄贈を受ける	
平成 16年	10月 8日	川内地区消防組合 (昭和 56 年 4 月 1 日発足) 解散式を挙行 (中央消防署車庫にて)	





作 詞 星合節子  
作・編曲 吉俣 良

薩摩川内市民歌 <sup>かがや</sup>輝け <sup>みらい</sup>未来へ

みどりあふれる さつ まじりに きほ  
ひかり輝く やさしく 香る カノコユリ  
まちを潤す 川内川 元気でゆこうと 呼びかける  
こどももおとなも いきいきと  
未来へ夢を 翔かす  
笑顔 明るく さわやかに  
幸せ創る 薩摩川内

薩摩川内市民歌 <sup>かがや</sup>輝け <sup>みらい</sup>未来へ

- 1 みどりあふれる 薩摩路に  
希望をかざして 日が昇る  
豊かな自然に 恵まれて  
ふれあう市民の あたたかさ  
こころとこころ 通わせて  
明日を拓く 薩摩川内
- 2 ひかり輝く 甌島  
やさしく香る カノコユリ  
育む文化や 産業も  
歴史と共に 伸びてゆく  
世紀 栄える ふるさとの  
平和を願う 薩摩川内
- 3 まちを潤す 川内川  
元気でゆこうと 呼びかける  
こどももおとなも いきいきと  
未来へ夢を 翔かす  
笑顔 明るく さわやかに  
幸せ創る 薩摩川内

## 薩摩川内ブランドロゴマーク



### ロゴマークの意味

- 青**は 藍の海や川内川を表現。  
研究し見極めようとする「探求する心」を象徴。
- 赤**は かのこゆり、ハート(心)を表現。  
人や文化を「受け入れる心」を象徴。
- 緑**は 薩摩川内市の大自然を表現。  
伝統や信念を「守り抜く心」を象徴。
- 黄**は 明るい街並や豊かな食を表現。  
先んじて「取り組む心」を象徴。

それぞれを円で表現し、この四つが一体となって薩摩川内人の「心」となるという意味である。

## 消防年報 平成25年(2013)

発行／平成26年9月

鹿児島県薩摩川内市消防局 消防総務課  
〒895-0074 鹿児島県薩摩川内市原田町22番10号  
TEL 0996-22-0119 FAX 0996-20-3430  
URL <http://www.city.satsumasendai.kagoshima.jp>